

《福井市の公民館に思う》

「紡ぎ合うコミュニティ」を支える公民館活動



中央公民館運営審議会委員 元東郷公民館主事

中嶋 貴美江

中央公民館の広報誌「福井市の公民館」は、平成 27 年 2 月に創刊されていますが、当時から、出来上がった原稿を校正する編集委員のメンバーとして参加しています。福井市民として、また、東郷地区の住民としての視点で、各公民館の特色ある学び合いやコミュニティ活動の記録を拝読できる充実した機会となっています。

公民館主事として、平成元年から、実践コミュニティの公民館活動を記録化して発信・発刊を継続してきた「つむぎの会」(自主的に集まった公民館主事の勉強会)での学び合いと重ね合わせています。

「つむぎの会」では、ご指導をいただいている福井大学教職大学院教授、柳澤昌一先生の『地域における住民学習は、生活の中の実感を紡ぐこと、人生が紡がれていく場であり住民の自治を耕す場である』とのお話を念頭に、福井市の特徴である小学校区ごとに設置されている公民館体制だからこそ実践できている活動事例のプロセスを細かく丁寧にまとめ、評価し合う“実践と省察”の学び合いを積み重ねてきました。

住民学習や自治活動とは、目に見える物や商品とは全く違い、人と人との紡ぎ合い、支え合う住民のさまざまなコミュニティ活動であり、それを形にして発信していくことが「つむぎの会」での重要な視点となりました。

そして、平成 11 年 7 月に「ふくい公民館を考える」を初めて発刊して、福井市全公民館、関係機関へ配付しました。平成 12 年から 14 年には、情報誌「学び合いを実践する地域」、平成 15 年からの数年間は、「ふくい公民館」を続けて発刊しました。これらは貴重な活動事例集として、福井市行政職員はもとより、県内外の関係機関に高く評価されることとなり、同時に公民館主事の職務への理解が深まるきっかけとなりました。

公民館活動の原点は、戦後間もなく立ち上がった「絆」や「連帯」を深め合う村民運動、住民活動そのものです。地域社会を構築する上で、人と人のつながりが最も大切であることは、新しい時代になっても脈々と受け継がれていく不変的な目的であると思います。

各公民館での太い絆で結ばれる住民自治の実践力こそが、福井市を支える原動力となっていると思います。情報過多の厳しい世相ですが、広報誌「福井市の公民館」が、次世代に伝える大きな役割を果たし、各公民館の地域課題、生活課題の新たな活動のきっかけ作りとして活用、共有されることを願っています。